

佐原の町並み かわらぬ版

第 1 7 号
平成10年11月

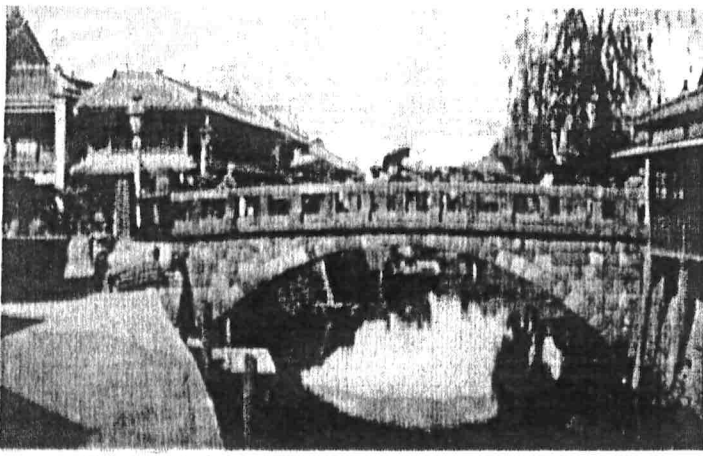
発行 小野川と佐原の
町並みを考える会
佐原町並み保存会

忠敬橋復元に向けて

「町並みを考える会」定例会の 議題に上がる

小野川と佐原の町並みを考える会の十月定例会では、かねてからの念願である忠敬橋（旧協橋・かなえ橋）の復元について話し合われた。

- ・ 忠敬橋については
- ・ 当時の石橋に復元
- ・ 協橋のイメージを残した橋に架け変える
- ・ 現在の橋を太鼓橋風に修景



昭和43年まで架けられていた協橋（現：忠敬橋）

いずれにしても、一長一短があり、課題も多いのですが、市民の皆さんの意見を取り入れ、一歩一歩実現に向けての運動を進めるこ

とを確認しました。

こうした私たちの活動や市民の声を結集し、行政をも動かして、できるだけ早い忠敬橋の復元・修景を願っています。

協橋のいわれ

佐原村の時代、江戸時代から陸上交通として重要であった香取街道。小野川には木造の大橋が架かっていて、しかし、木造のため、何度も修理や架け替えが行われた。当時、佐原の有力な商人であった八木善助氏は、神田川に架かる頑強な万世橋を見て、佐原にもこんな立派な橋が欲しいと思った。そこで、八木氏を中心とした十七人の発起人が村民に呼び掛け、多額の寄付を集めた。

総工費四、八四〇円二〇銭八厘。隣の牧野村からも八〇円の寄付が寄せられ、明治十五年一月完成。

官の力は借りず、村民だけの力で造った橋なので、協（かなえ）橋と名付けられた。佐原から深川までの間に、これほど立派な橋はないと言われるほどの石橋でした。

小江戸サミット盛会裡に幕・・・

舟運で結ばれた栃木・川越・佐原

新宿大祭の前日の十月八日、第三回小江戸サミットが与倉屋大土蔵で開催された。舟運で栄え、「小江戸」と言われる三市の市長を始め、地域の伝統を守る各種団体の方々が多数集まった。

〈第一部〉

各市の特色を紹介する挨拶の後、栃木・日の出町ばやし連響の会によるリズムカルなお囃子。川、

越・今福囃子連による優雅な舞いの神楽が披露された。

〈第二部〉

江戸東京博物館長竹内誠氏による「江戸文化と佐原」の記念講演。舟運で栄えていた佐原には、小林一茶、十返舎一九、渡辺崋山、高田与清等多くの文化人が訪れた等の話し。また、当時の記録によると、男性に混じり、女性の名前もあり、女性の教養の高さと女性文化史の先駆けを思わせる。

また、雷電為エ門の旅日記から佐原での相撲興業のエピソードの話もあり、当時の佐原の豊か



さが偲ばれた。次に、千葉経済大学教授の川名登氏による「江戸と佐原を結ぶ利根川水運」の基調講演が行われた。



これからの発展を語る各市パネラー

〈第三部〉川尻信夫氏の司会によるパネルディスカッション。本市のパネラー円城寺達雄氏からは、今後の情報交換と観光産業の発展

についての意見が述べられた。他のパネラーからは、新たな舟運と道路網、大江戸と小江戸との「まつり」による結びつきなどの意見が出された。

諏訪大祭

絢爛豪華に 山車引廻し

秋の大祭は、小江戸サミットを皮切りに行われた。晴天に恵まれたお祭り広場では、三市の各地特産物の販売や郷土芸能があり、サミットと重なったことも幸いして、四十三万人の人数で賑わった。佐原への観光客は、年々増加し、山車祭りのほか、あやめシーズンには二十万人、神宮への参拝客を含め、年間三六〇万人が訪れる。



町角ほれ話

川越から来た、組木玩具屋さんに伺った「いやあ、見事です。山車の彫刻は。私は、材木屋なんです。けやき材は、今一面で百万はします。彫刻の厚みの三倍は必要ですから。もう彫れる人もいませんよ、大変な文化財です。テナントの店番でゆっくり見られず残念でした。」との話しでした。彫刻を改めて見直してみましよう。先人が、心魂込めて趣を競って造り上げてくれたもの。次世代の人達がきっちり自覚し、受け継いでもらえるよう、私達が努力する必要があります。